

第14回 全国大会・研究発表大会
若手学生奨励賞 受賞記

文教大学大学院 秋本桃子

この度は若手学生奨励賞という素晴らしい賞を授かり大変光栄です。また、論文を査読しご選考くださった先生方、当日、関東学院大学での発表時に鋭いご質問や今後の研究の方向性を示してくださった皆様、この様な素晴らしい機会を与えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

本研究は、日本の外国語教育の現場における、一斉授業（クラスルーム）での言語活動のような1名の教員では活動の充実が難しい場面を、対話型ロボットを用いたロボットサービスの導入により教員の業務を支援することを目的としています。

英語のクラスルームにおいて教員を支援するロボットサービスの開発とこれを用いた授業支援システムの開発に、教員の行動を観察し、教員が生徒の状況に応じて働きかけや発言を行っている場面から、対話練習における業務ルールを明らかにする必要があります。本論文（「英語対話練習ロボットサービスにおける教師の業務ルール記述と行動認識の検討」）は、これらのルールの条件部において、音声認識と画像認識を用いて生徒の行動を認識する各処理とルール記述の対応を検討したものであります。これにより、業務ルールの条件部の構成は、複数の行動認識処理を組み合わせとすることを提案しました。また、業務ルール記述を各行動認識処理と組み合わせるため、入力インタフェースの必要性について言及しました。

今後は各行動認識処理を作成し、入力インタフェースを通じて教員が柔軟に対話練習場面におけるロボットサービスの構成を行える環境の開発を行っていきます。

対話型ロボットを利用した授業支援システムの開発が盛んに行われて行くと考えています。本論文が、その一役になればと思います。しかし、現状では、業務ルール記述と行動認識の検討を行っている段階です。今後もより研究に励みたいと思います。

本論文の成果は、平成29年度文教大学情報学部共同研究費、およびJST/CREST「実践知能アプリケーション構築フレームワークPRINTEPSの開発と社会実践」の補助を受けたものです。同研究を行ってきた文教大学の阿部秀尚先生、慶應義塾大学の山口高平先生、森田武史先生、英語の授業場面における業務ルールを評価していただいた文教大学国際学部の生田祐子先生に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

今後の研究がますます発展することを願い受賞記を締めくくらせて頂きます。

文教大学大学院 情報学研究科
情報学専攻 秋本 桃子